

## 学生海外派遣プログラム実施報告書

所属学科：創成科学研究科

氏名：沖 大郁

派遣期間：2018年3月4日～2018年3月11日

派遣先：台湾 台湾師範大学

### 1. はじめに

2018年3月4日～3月11日、台湾師範大学において地質巡検を中心とする科学全体に対する理解の向上を目的とするプログラムが行われた。本プログラムは台湾師範大学で開催されるものに参加した形であり、私が大学院で行っている研究に直接的な関係があるものではない。私は、研究面での技術や知識の向上ではなく、科学を構成する要素を学ぶと共に、新たな経験から思考や刺激を得ることを目的とし、参加した。本プログラムでは、以下に本プログラムの日程と概要を示す。

1日目	移動&キャンパスツアー
2日目	座学:数学&情報科学
3～5日目	地質巡検
6日目	座学:生物&化学
7日目	プレゼンテーション
8日目	移動

### 2. 大学訪問

台湾師範大学は元々、教員任官を目的とする大学であり、体験的に現在もその名残がある大学であった。そのためか、学生一人一人の説明能力が高く、言語が異なっても理解できるほどであった。



図 1. 台湾師範大学内で行われたキャンパスツアーの様子

### 3. 台湾と地震

本プログラムのおよそ一ヶ月前、台湾でマグニチュード6超を観測する地震が起こった。数年前から、台湾は日本同様、大地震が発生している。しかしながら、地震への対応に乏しく、二年前、台湾東部を襲った震度7と言われている地震では数百名の死傷者と公表されている。今回の地震は、その教訓が生かされているわけではない現状があった。私は、台湾の地質を学ぶために、台湾南部へ行った。そこは、私が見ても明らかなほど非耐久的な建築物が多く、地震に備えていると思えない光景であった。



図2. 台湾南部の街並み(左)と台湾の断層の様子(右)

台湾は地震によってできた島と言われており、右図のような光景が広がっている地が存在する。地震について考える機会を与えられた地質巡検であった。

### 4. さいごに

今回の海外派遣プログラムは、初めての海外でも行きやすいものであったと思いました。国際感覚も重要な要素である社会情勢において、大学生活で一度は経験すべき内容を含んでいました。英語に自信がなくても、現地の人に積極的に話しかけることで改善に向かうと思います。ぜひ、多くの人に参加してほしいプログラムでした。

今回お世話になった先生方や学務の方々はもちろん、後援会の皆様、訪問を許可していただいた台湾師範大学に感謝を申し上げます。